

「仕方ない」地元落胆 フジロック中止 観光に大打撃

新型 ウイルス

湯沢町の苗場スキー場で8月21〜23日に開催予定だった「フジロックフェスティバル」の中止が発表された5日、地元の観光関係者には落胆が広がった。新型コロナウイルスの収束が見通せない中で「仕方がない」と冷静に受け止め、次に目を向ける人もいた。

1997年に山梨県の富士山麓で始まったフジロック



クは、翌年の東京・豊洲開催を経て、99年から苗場スキー場で開催されている。10万人が集まる夏の一大

イベントとなり、開催期間中は苗場地区や温泉街など町内約240の宿泊施設がほぼ満員となるなど、経済効果は大きい。町のある幹部は「明確な試算はないが、数億円以上の経済効果がある」とみる。

「本当に残念だが、このご時世を考えると仕方ない……」

大勢の観客で盛り上がるフジロックフェスティバル2018年7月、湯沢町の苗場スキー場

い」。町観光協会の小林庄一会長(75)は肩を落とす。自身が経営する温泉街のホテルにもフジロック参加者の予約が入っていたが、多くのキャンセルが見込まれる。小林会長は「経済的な大打撃は避けられないが、来年の開催に向け切り替えたい」と前を向いた。

苗場地区でホテルを経営する金沢龍太さん(67)は、フェス会場内の木道整備に携わるなど主催者との関わりが深い。直前まで開催を模索していたとの話も聞いていたといい「苦しい決断だったと思う。決定は尊重したい」と語る。

昨冬の少雪に続き、新型コロナウイルスによる大型イベントの中止は地域経済に深い

爪痕を残す恐れがある。田村正幸町長は「夏の湯沢になくてはならないイベント。残念だが、今後の経済対策をしっかりと検討していきたい」と話した。